

10区市民の会結成から1年

10区市民の会事務局 高橋元文

昨年2月18日、安保法制を廃止し、立憲主義を回復する「10区市民の会」(略称「10区市民の会」)が「海外で戦争する国」づくりに反対し、「安保法制廃止・立憲主義回復」を目標に野党共闘の実現を求め、世論を結集していくため、共同して運動をすすめることを目的として結成され1年を過ぎました。

衆議院の解散総選挙がささやかれている最中のことでした。

「10区市民の会」の会合は、結成以後18回開きました。会の目的に賛同する埼玉10区内の団体と個人38名(坂戸4名、鶴ヶ島7名、東松山8名、川島1名、鳩山4名、ときがわ1名、吉見4名、滑川2名、嵐山1名、小川5名)が参加しました。

会の組織形態は、会費を徴収しないゆるやかな組織としたので、個人の立場で参加されているのか団体を代表して参加されているのかはあえてはっきりしないようにしました。

会議の意思決定は多数決を避け、少数でも強い異論がある内容は会の決定とはしませんでした(例:候補者の推薦や支持表明等はしませんでした)。

会合出席者の出身団体は17団体(6地域の九条の会など各種各地域の市民の会や労働団体)でした。

当初、会として民進党の現職議員を野党統一候補として支持することが暗黙の了解事項として政策協定書作りなどを進めて来ましたが、その候補者が安保法制廃止という会の1丁目1番地の政策に曖昧な態度をとる希望の党から立候補する事が明らかになり、野党共闘は実現しませんでした。

「10区市民の会」が作成した政策協定書案は共産党と社民党が賛同しましたが、自由党と民進党からは返事がなく、希望の党の10区候補者は投票日の3日前になって政策協定書を結びたいと申し込んできました。

突然の申し入れでしたので、会の会合を開催する時間がなく、会の代表と事務局の判断で協定書にサインをしましたが、会として同候補者への支持や推薦は行ないませんでした。

希望の党の候補者と政策協定をしたことは会の中で

も賛否両論がありましたが、10区内の保守系中立系無党派系も含めた多くの市民団体を結集してこそ、共闘路線に引き戻す力になると考えています。

東松山市ではその後希望の党から立候補した前議員に近い保守系党派と市議会での野党共闘が進み、昨年12月議会において「立憲主義を堅持し、憲法九条を守り、戦争しない日本を求める意見書を国に提出」するよう求めた請願が賛成多数で可決され、全国的な注目を浴びました。

東松山市では、投票日直前に希望の党の候補者と政策協定したことについては支持する声が多数です。

最後に、10区での市民と野党の共闘の試みは会の結成からやっと1年経ったばかりでまだまだ日が浅く試行錯誤の状態ですが、各種市民団体がそれぞれの地域で多くの有権者や議員さんたちと日常的につながり、影響を広げる事が大事だと感じています。

語り継ぐ会での質疑応答から

権平 2歳半の時に、十勝沖地震での津波の寄せ波、引き波の記憶がある。自分の命の危険を感じたときは、小さくても覚えているのではないか。

山本 1父の戦死後、母の実家の九州で過ごした2歳半の時、進駐軍の米兵が縁側にチューイングガムを置いていった。叔父や叔母は怖くて逃げたが、ガムを受け取ったのを鮮明に覚えている。幼くても記憶していることがあると感じた。

高橋 今野さんの空襲の光の記憶はあり得る。鮮明な記憶は、特別な記憶だと思う。空襲の光が脳裏に残るのはあり得る。

石川 東京大空襲では、お袋に叩き起こされ後樂園へ逃げた。大塚へ逃げた人は助からなかったようだ。燃えている方から燃えていない方へ火が襲い掛かるのが見えた。防火水槽の水をかぶせられ、冷たかったのを覚えている。疎開の汽車への機銃掃射を列車とプラットホームの間に入り免れたが、逃げ遅れた数名が亡くなった。命に関わることは覚えている。

藤原 2歳になる前、材木の下敷きになり、右足の小指をなくした。その痛みと怖さは覚えている。

高橋 お父さんの片目が不自由ではラジオや通信機

九条の会さかど 13周年のつどい

日時 6月10日(日曜日)13時30分~16時

会場 坂戸市文化施設オルモ(2階)情報研修室

内容 戦場体験を受け継ぐとは(歴史研究者 遠藤美幸さん)

の修理は大変だったのでは？ 苦痛やストレスがあったのでは？

今野 母は尊敬するところ多数あるが、父に対してはそうでもない。ランドセルを買うよう母が父に渡したお金はラジオの部品に変わった。ランドセルではなく布製のお使い袋になったのが恥ずかしかった。

今野 アメリカ軍への思いやり予算の映画を見た妻が、病院勤めで注射針を消毒する水も不足していた時期に、米軍基地では家族用プールの水が毎日のように変えられていたという感想を書いたことが、本日をきっかけとなった。戦中のかすかな記憶、戦後のある程度はつきりした記憶を語れる人はまだ多数いると思う。

山本 戦争を語り継ぐことができる人は少なくなっている。これを若い人に伝えていくことは大変大事なこと。だが、体験がなくても、色々な資料を調べれば知ることはできる。広島、長崎の原爆資料館に行けば、惨たらしい地獄絵図を見ることができる。それを見れば、核はダメだ、いけないとわかるはず。語り継ぐことも大切だが、語り部もいなくなる。九条の会として今後どうやって広げていくかが大事。九条は世界の宝。自分でもどうすればいいか考えている。

語り継ぐ会の感想から

◆ 今野さんのお話は、東京大空襲時、母親に背負われて防空壕に避難した時のおぼろげな記憶から始まりました。当時「板橋付近」にお住まいだったので、職人のお父さんと3人暮らしの生活の実態を具体的に話してくださいました。地方へ食料を求めて出かけ、苦勞して手に入れた食料を募集された時の無念さ・悔しさは生々しくよくわかります。食料といえば豚の餌扱いのトウモロコシの粉だったので、お芋があればまだ良いほうだったと思います。

怪しげな職業のご婦人方とアメリカ兵は都会だったらどこでも目にする光景であり、傷痍軍人・繊細浮浪児などは小説や映画でも知らされており、誰の胸にも暗い記憶として残っています。

私は1935年(昭和10年)11月に生まれ、東京の上野広小路に住んでおり、黒門国民学校に入学し、「軍艦マーチ」を全員で合唱しつつ集団登校しておりました。東京大空襲で爆撃され、移転した巣鴨の我が家は全焼し、直後に福島県喜多方の叔母宅へ転がり込みました。以後は父の仕事先の岡山・福島・茨城と地方を転々として東京の状況はほとんど知らずに過ごしました。

グループ化した少年たち、特攻帰りの先生、分割授業といった具体的なお話などを交えた貴重な体験談をどうもありがとうございました。(石川裕一)

◆ 私は戦後生まれで田舎育ちのため、戦争の思い出はほとんどありませんが、今野さんの貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

ひとつは戦中、特に戦後を幼少期・小学生時代を東京で過ごした話であったこと、また、私も板橋で一時期を過ごしましたので、小豆沢近辺の戦後の状況を知ることでもでき、歴史の勉強にもなりました。

この会の取り組みが九条解約阻止に結びつけば

良いと思います。(千代田 岸)

◆ 九条の会の魂、反戦意識は平和な生活の中では生まれにくい。こうして問題意識を高めていくことは大切だと実感した。

個々の戦中・戦後体験は、それぞれ聞かせていただくたびに感動する。既に聞いたことでさえ、新たな感動を抱く。

今野さんのお話しは、ありがたく、自分には知れない東京・板橋の戦後体験である。ありがとうございました(西坂戸 高橋正宏)

◆ 本日の今野さんのお話しは、以前に個人的に聞いたこともあったが、本日はさらに詳しく聞けて良かった。

今野さんが幼少期(2歳半)の頃のことを鮮明に覚えていることには、命の危険があったとはいえ驚きである。戦中戦後を、皆さん厳しい時代を過ごしてこられたのだと思う。父から聞いていた話と異なるのは都市部等田舎の違いかと思う。

岩野さんが同級生にかけた言葉に今も後悔の念をもっていることは、今野さんの性格というか人間性をあらわしていると思う。(栄 平瀬敬久)

◆ 戦争を語り継ぐ会での今野さんの話、勉強になりました。九条を守りましょう。戦争は嫌です。

88名をカウントしながら

山田町 小林忠夫

九条の会さかどとして取り組んでいる「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」ですが、集計係である私の手元には「九条の会さかど」の会員の皆さんから、128名の署名が届いています。

私が「安倍9条改憲NO！」署名を依頼してみて気になったことは、既に「署名済み」という人が少ないことです。

こういった活動に関係の無い会合に参加して休憩中に依頼して回った経験で言うと、1月の会合では、署名10名、署名済み3名、拒否3名。2月の会合では、署名20名、署名済み7名、拒否5名。3月初めの会合では、署名15名、署名済み5名、拒否0名。

運動はまだまだですが、でも拒否は意外に(?)少ない。2週間の間にゆるやかですが、運動はかなり進んでいるということでしょうか。

私がこれまでに集めた署名数は45名ですが、署名済みを確認できた43名を加えると、88名が署名していたのですね。

やはり、人と会う機会を多くするしかないですね。がんばりましょう。

「安倍9条改憲NO！」署名を！

お配りした署名用紙は、4月20日(金曜日)までに、運営委員に届けるか、「〒350-0224 坂戸市山田町10-53 小林忠夫」宛てに、ご郵送をお願いします。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

4月26日、5月24日、6月28日(第4木曜日10時~12時)会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。